

課題対応取組報告書

【共通】

名称	西成区北西部地域包括支援センター
提出日	令和 7 年 6 月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	ひろ〜く知ってもらいたい！ 〜相談しやすい仕組みづくり〜広く浅く幅広い世代への周知	
地域ケア会議から 見えてきた課題	一人暮らし、認知症、複合的な課題を抱えたケース等、課題自体は数年来大きく変わっていない。予防的な介入として関わったケースもあったがほとんどは重篤化した課題を抱えてからの関わりとなった。普段地域とかかわりのない方、介護なんて関係ないと思う若い世代、どこからでも相談につながる仕組みが必要である	
対象	地域住民	
地域特性	圏域5地域高齢化率（2025年3月現在） 北津守31.80% 梅南32.61% 津守45.02% 長橋40.38% 松之宮45.45% 北津守・津守地域は社会資源が少なく交通の便も悪い。しかし北津守には外国人世帯が多く移住、高齢化率の低下へとつながっている。長橋・梅南・松之宮は比較液スーパーや病院など社会資源も多く交通機関もある。5地域通じ独居高齢者、あるいは高齢者のみの世帯が多く少子高齢化が顕著である。	
活動目標	高齢者・介護というワードにとらわれず、ゆるい見守り機能を持つ「気配りさん」や多機関と連携し幅広い世代に身近な相談窓口である、地域包括支援センターを周知する	
活動内容 (具体的取組)	・長橋地域の特定の市営住宅と津守地域に定期的に包括パンフレットを配布し、総合相談件数とのかかわりを分析した。 ・いきいき元気教室を活用、地域住民に包括周知のDVDを視聴してもらう。その後、意見交換を実施する。 ・オレンジまつりや地域行事など幅広い世代が参加するイベントで包括パンフレットの配布を行なった。 ・ゆるい見守り機能を持つ気配りさんについて、総合相談などで関わる方に登録をお願いした。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・総合相談件数全体は、ここ数年横ばい状態であるが、地域行事へ出向いた時にお聞きする出前相談件数が増加している。パンフレットの配布を定期的に行った地域の総合相談件数をみると、パンフレット配布の周知もある程度の効果はあるが、日頃からの顔の見える関係が何より効果的であると考えられる。 ・オレンジまつりは地域住民にも定着しつつあり、関係者も含めボランティアや参加者として積極的に関わってもらい関係づくりのきっかけとなった。	
今後の課題	・パンフレットの配布による相談件数等を分析するが、配布回数や枚数と相談件数は比例関係ではなかった。対して、出前相談件数が増加していることから、アウトリーチの重要性と、相談する、という事に対するハードルの高さを実感し、さらに地域の身近な相談窓口としてのアピールが必要であるとする。 ・BCPの策定や訓練の義務化に伴い、在宅介護支援専門職と地域住民との関係構築を支援することも重要であると感じる。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 16 日（水）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域包括支援センターパンフレットを定期的に配布し、その効果を分析するとともに、出前相談件数が増えていることから、アウトリーチの重要性を活動から把握しており、今後も幅広い世代への周知や相談しやすい仕組みづくりを期待している。	